

日本文学



きみの声を聞かせて

小手鞠るい／著
偕成社（2016年）

声を失った葉香^{ようか}は日本に、盲目のピアニストの海渡^{かいと}はアメリカに住んでいる。そんな二人は SNS を通して詩と音楽の交換を始める。交流が続くうち海渡が日本でコンサートを開くことになり、勇気を出して葉香に来てほしいと伝えるが…。

ヒッキーヒッキーシェイク

津原泰水／著
幻冬舎（2016年）

「ブキミの谷を越えろ！」究極のヴォーカロイドを作る！果たしてそんなことが可能なのか？自称カウンセラーの竺原丈吉^{じくはらじょうきち}は顧客の引きこもり少年少女のスキルをひとつにまとめ、「人間」を作ると宣言する。竺原の真の目的とは？





スマイリング！ 岩熊自転車 関口俊太 土橋章宏／著 中央公論新社(2016年)

ロードバイクにあこがれる中学生関口俊太は、周りがロードバイクに乗る中、一人ママチャリで特訓する毎日。そんなある日、岩熊自転車のおっちゃんとの出会いが俊太に奇跡を起こす！大切なことを教えてくれて、読み終わったとき心がアツくなる一冊！

ハルと歩いた

西田俊也／作
徳間書店（2015年）

小学校を卒業したばかりの春休み。突然声をかけてきたホームレスのおじさんから、迷い犬の飼い主捜しを頼まれてしまった。しかたなく犬を連れて近所を歩き始めてみると、町も友達も意外な発見の連続だった。

